

IBA だより

第20号

《茨城県吹奏楽指導者協会》

令和7年9月1日発行

発行人 茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原 征剛

事務局 つくばみらい市谷井田 1635-5 本間 晃司

「ソロコンテストいばらき」で思うこと

茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原 征剛



これまで、私は「ソロコンテストいばらき」の審査員を長くやってまいりました。そして、皆さん方の演奏を聴いて気が付いたことを、この「IBA だより」に載せてきました。

さて、皆さん方が手にしている楽器は、その楽器の特徴を最大限に生かした独奏曲(Solo)が数多くあり、協奏曲(Concerto)、ソナタ(Sonata)、組曲(Suite)、変奏曲(Variation)などに分類されて多くの人たちから親しまれています。これらの楽曲を少々乱暴な言い方を承知の上で分類すると、速いテンポで華麗なテクニックを披露する「Allegro(急章)」の部分と、それとは正反対のゆっくりとしたテンポで表情豊かな(espressivo)音楽の「Adagio(緩章)」の部分に分けることができます。そして、この両者がバランスよく配置されて楽曲は構成されているのです。

今回はそのうちの「Adagio(緩章)」の部分について少しお話をしたいと思います。ここでの音楽は「Allegro(急章)」と違って、ゆっくりしたテンポで歌うような(cantabile)旋律でつくられていて、人の心の中にある豊かな感情を切々と訴えるような音楽が多くあります。

このような楽曲の練習方法について一言、申し上げたいことがあります。それは、いきなり楽器で演奏するのではなく、先ず、ピアノなどを使って旋律を覚えたら声を出して歌うことからスタートしては、如何でしょうか…。

その練習法の一つとして、旋律を誠心誠意、声を出して自分の気持ちを表すことです。何度も歌っていると、旋律の抑揚や強弱など、自分が表現したい音楽が少しずつ分かってくるものです。また、それと並行して、今度は歌った時と同じように、楽器で練習を重ねるとおぼろげながら全体像が見えてくると思われます。次に、その旋律を幾つかの解釈を変えた演奏を試みながら練習を続けることで、その音楽が持っている本質(真髄)を手に入れることができるのです。ここまで来れば音楽の完成も間近でしょう。

そして、さらにその楽器のいろいろなジャンルの楽曲に接することで、その曲が持っている技術的な面はもちろんのこと、音楽的にも高度な内容を身につけながら、その楽器のいろいろな名曲に挑戦して、音楽の知識をさらに広げて欲しいと思っています。

最後に、ご指導されている先生方へお願いがあります。私が「IBA だより」に載せているものは子どもたちへ向けて書いています。どうぞ、子どもたちにも見られるよう、ご配慮の程よろしく願いいたします。

(茨城大学 名誉教授)

令和6年度 受賞者の声



第27回 ソロコンテストいばらき(県大会)げんでん音楽大賞受賞者

♪目標を叶えるために 水戸市立笠原小学校 綱川 陽菜里 (Cor.)

私は、去年初めてソロコンテストに出場し、「金賞」「げんでん音楽賞」をいただくことができました。しかし、その結果が悔しくて、この1年間、「げんでん音楽大賞」を目標に練習に励みました。

練習をしていくうちに、記号通りに吹けていなかったり、高音を外してしまったりしました。自分の苦手なところは、レッスンの先生にアドバイスをいただきながら練習し、今回のソロコンテストでは、1年間の目標だった「金賞」「げんでん音楽大賞」をいただくことができました。目標が叶ってとても嬉しかったです。

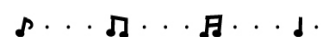
これからも、指導して下さった先生方、身の回りの方々に感謝をし、たくさんの人の心に響くような演奏をできるように目標をつくり、努力し続けます。



♪支えてくださった皆様へ 取手市立藤代南中学校 矢川 紗耶子 (Fl.)

第27回ソロコンテストいばらき《県大会》において、げんでん音楽大賞を受賞したことを大変うれしく光栄に思っております。この賞を頂けたことは、私の音楽に対する情熱と努力が認められた証であり、3年間の練習や挑戦が報われたように感じました。特に、家族や伴奏の先生、顧問の先生や部の仲間たち、そして小学生のころから熱心に指導して下さったフルートの先生の支えがあったからこそ、このような結果を出すことができました。今後もさらに技術を磨き、音楽を楽しんでいきたいと改めて思います。この賞を機により多くの人に音楽の楽しさを伝えられるように努めてまいります。応援して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

♪高校生の部 茨城県立水戸第一高等学校 郡司 柑太郎 (Cl.)



第23回 JBA 関東甲信越支部中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト 審査員彦坂眞一郎賞受賞者

♪多くの人に支えられて 明秀学園日立高等学校 関川 未桜 (A.Sax.)

この度は関東甲信越大会で「審査員彦坂眞一郎賞」を受賞できたことを大変嬉しく思います。私は今回のソロコンテストが初出場で、慣れないなか多くの人に支えてもらいながらの出場になりました。

私が今回演奏いたしました「アリオートとプレスト」を決めたきっかけは、選曲に悩んでいたところ、先輩からこの曲が合っているんじゃないかと勧められたことからでした。この曲は、2つの曲調で分かれており、主に「アリオート」は柔らかく歌うような旋律で、「プレスト」は軽快で疾走感があふれるパッセージで分けていますが、ソロの経験がなかったため、曲の表現の仕方やアーティキュレーションの付け方さえ分からず、とても不安でした。それに加え、私の演奏がどこまで通用するか分からない不安や周りからの期待で、挫けそうになったとき、友人が「自分がしたい演奏をすればいいと思うよ」と言ってくれたことで、不安を乗り越え「自分らしく」演奏することを目標に頑張ることができました。

また、出場するにあたりご指導下さったサックスの先生、顧問の先生など沢山の皆様からのアドバイスをいただくことで演奏面やソロコンテストへのモチベーションの向上に繋がり、最後までやり切ることができた上に、「彦坂眞一郎賞」も頂くことができ、本当に嬉しく思うと同時に、周りの人たちの支えがなければ絶対に成し得ないことだと思いました。

これからもお世話になった人への感謝を忘れず、心に響く演奏ができるよう今後の部活動に励んでいきたいです。



第29回 JBA 全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト 審査員山本英助賞受賞者

♪名曲継承の大切さを実感して 茨城県立水戸第一高等学校 郡司 柑太郎 (Cl.)



この度は、このような素晴らしい賞を受賞することができ、大変光栄に思います。私が今回演奏したモンブランの「演奏会用小品」はクラリネットの魅力がたくさん詰まった曲となっています。非常に技巧的なため、最初は「自分にこんな難しい曲が演奏できるのか」と不安を感じていましたが、「この曲を多くの人に知ってもらいたい」という思いから、この曲を演奏しようと決意しました。

この曲を練習していく中で、私が最もこだわったのは、冒頭のカデンツァです。まずはメトロノームをつけて楽譜通り吹けるように練習し、そこから少しずつ崩していって理想の形を探しました。カデンツァは曲の中でも特に、様々なアプローチができる部分だと思うので、最初から吹き方を決めずに、毎日そのときのイメージによって吹き方を変えて練習しました。

私は中学 1、2 年生、高校 1 年生のときにもこのソロコンテストに挑戦させていただきましたが、これまでの大会では、「失敗をしたくない」という思いや「良い結果を残したい」という思いが強く、自分が表現したいことを表現しきれずに演奏を終えてしまっていました。しかし、今回は「この曲の魅力を多くの人に届けたい」という思いが今まで以上に強く、それが今回の結果に繋がったのではないかと感じています。

ソロコンテストを通じて、技術が向上しただけでなく、表現の幅や音楽に対する視野をものすごく広げることができました。私がこうしてソロコンテストに挑戦することができたこと、このような素晴らしい賞を受賞することができたことは、先生方のご指導や多くの方々の支えがあったからこそだと強く実感しています。

これからも名曲を継承し、クラリネットの魅力を多くの方々に届けるとともに、支えてくださった方々への感謝を、音楽を通して伝えられるように精進します。



「第 23 回 JBA 関東甲信越支部中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」

JBA 関東甲信越支部茨城県部会長 古井 忍

令和7年2月16日(日)昭和音楽大学ユリホールで行われた関東甲信越支部大会で、中学生部門に矢川紗耶子さん(FI.藤代南中)、西郷芽咲さん(FI.水戸一高附属中)、遠藤真央さん(FI.大久保中)、青木大空さん(A.Sax.総和中)、高校生部門に郡司柑太郎さん(Cl.水戸一高)、関川未桜さん(A.Sax.明秀日立高)、鈴木藍梨さん(A.Sax.霞ヶ浦高)、藤田真彩さん(Eup.水戸女子高)、小学生の特別演奏として綱川陽菜里さん(Cor.笠原小)が茨城県代表として出演され、音楽・技術両面において日頃の練習の成果を十分に発揮されました。

高校生の部では、関川未桜さんが審査員彦坂眞一郎賞を受賞され、郡司柑太郎さんが支部代表に選ばれ、3月28日に桐朋学園大学で行われた第29回全日本管打楽器ソロコンテストで審査員山本英助賞を受賞されました。

新型コロナウイルス感染症の5類認定移行後、入場制限がなくなり、たくさんの方々に演奏を聴いていただくことができました。これからもソロコンテスト事業を通して、豊かな音楽表現の手助けとなるように努めてまいります。

事務局よりのお知らせ

IBA 事務局長 本間 晃司

<令和7年度ソロコンテストいばらき日程(予定)>

○ソロコンテスト一次審査 R7.12/6(土)・7(日)・13(土) ひたちなか市文化会館(会議室他)

○ソロコンテスト県大会 R8.1/17(土)・18(日) 東海文化センター

昨年度の一次審査は県内5地区から412名の参加があり、3日間延べ18名の審査員で実施しました。県大会は会場を前回同様に東海文化センターで、表彰式も実施して開催いたしました。

小学生・中学生・高校生の各部門で、皆さん方が日頃の練習成果を発揮し、素晴らしい演奏発表が披露されました。それぞれの出場者が金賞・銀賞・銅賞のいずれかを受賞しました。また、「(公財)げんでんふれあい茨城財団」より特別賞として、「げんでん音楽大賞」を小・中・高の各部門で各1名が、「げんでん音楽賞」を小学生3名、中学生5名、高校生6名が受賞しました。今年度は昨年度をさらに上回る数多くの皆さんが参加され、素晴らしい演奏を聴かせてくださることを期待しています。

※一次審査の音源の提出処理について

地区事務局に音源を送付する際、一次審査の参加要項をよく確認するようお願いします。

※県大会の演奏について

県大会はステージ演奏を予定していますが、感染症等の状況によっては音源録画データによる審査に変更する場合も考えられます。ご理解いただけますようお願いいたします。

※「IBA だより」は茨城県吹奏楽指導者協会(IBA)のHPより過去の文書も含めてダウンロードできます。

<令和6年度 第27回ソロコンテストいばらき 一次審査参加者数・県大会出場状況>

小学生の部		一次審査	県大会	中学生の部		一次審査	県大会	高校生の部		一次審査	県大会
	県東	0	0		県東	24	6		県東	17	7
	県南	1	1		県南	46	11		県南	35	16
	県西	3	2		県西	107	31		県西	19	10
	県北	0	0		県北	19	6		県北	13	6
	県央	9	4		県央	79	23		県央	40	19
	計	13	7		計	275	77		計	124	58

「げんでん財団」は

日本原子力発電株式会社が設立した公益財団です

地域文化の振興 ふれあいとゆとりある

地域社会の発展に寄与します

公益財団法人

げんでんふれあい茨城財団

日本原子力発電(株) 茨城事務所内(水戸市笠原町 978-25) TEL 029-287-1251